

中国の大学における図書館情報学教育の現状と課題

—武漢大学信息管理学院を事例として—

Current Status and Issues of the Library and Information Science Education in Chinese Universities: A Case Study of School of Information Management at WuHan University

学籍番号：201621654

氏名：陶 穎

Ying TAO

中国で最初の図書館学の専門学校である武昌文華大学図書科が設立されてから、約 100 年が経過した。その後、特に 1978 年の改革開放以降、中国の高等教育における図書館学/図書館情報学教育は、社会情勢の変化や情報通信技術の導入により、大きく変容してきている。

本研究では、中国の大学における学部教育レベルの図書館学/図書館情報学教育に焦点をあて、その現状と課題を明らかにすることを目的とする。武漢大学信息管理学院を事例として取り上げ、2013 年度および 2018 年度のカリキュラムの改革を中心とした図書館情報学教育の現状と課題を明らかにすることを目的として、文献調査とインタビュー調査を行った。

文献調査では、中国の経済の政策と高等教育の政策を概観し、建国前、建国初期、文化大革命期、調整期、発展期の 5 つの時期に分け、中国の大学における図書館学/図書館情報学教育の発展を中国で最初の図書館学の専門学校である武昌文華大学図書科が設立されてから現在までについて述べた。また、武漢大学信息管理学院における 2013 年度および 2018 年度のカリキュラム改革にかかわった教員を対象として半構造化インタビューを実施した。

その結果、武漢大学における図書館情報学教育が実施されている信息管理学院における 2013 年度のカリキュラム改革は、大学全体で教養教育を中心に改革した。より広い科目を提供するによって、学生は多様な科目を選択できるようになった。2018 年度の改革では、専門教育及び教養教育両方とも改革された。教養教育必修科目の新設はシラバスがないため教養選択科目を選択することが困難な学生の支援にもなっている。専門基礎科目の新設は大分類のもとで、学生は自分の興味やニーズに合わせて専攻を選択できるようになる。

しかし、武漢大学は教養教育理念の重要性が喚起されつつあるものの、実は相変わらず専門教育に重点を置いている。また、中国の図書館情報学教育は、専門教育と教養教育との関係について、限られた履修期間において、教養教育がどこまで重視されなければいけないのか、専門教育と教養教育とのバランスをどのように設計するのか大きな課題である。

研究指導教員：吞海 沙織

副研究指導教員：溝上 智恵子